



大学フォーラム創立3周年記念シンポジウム

オンライン開催

「『学術の中心』としての大学と社会

ー研究・教育・ガバナンスから考えるー

【話題提供者】

- ◆ 「大学ファンドと研究力」 黒沢大陸（朝日新聞）
- ◆ 「研究は誰のため、何のため」 隠岐さや香（名古屋大学）
- ◆ 「“役に立つ”学問とは」 本田由紀（東京大学）
- ◆ 「受験戦争からこぼれた子を“拾って”ます」 国枝幸徳（NHK学園高等学校）
- ◆ 「社会と向き合う大学のガバナンス」 光本滋（北海道大学）

3月19日(土)

14:00~

【申し込み方法】

下記URLから申し込みフォーマットにご記入ください。もしくは大学フォーラムホームページからお申し込みください。開催前日までにZoomのURLをお送りいたします。

<https://forms.office.com/r/VxSASu8aUv>



大学フォーラム

大学の危機をのりこえ、明日を拓くフォーラム

主催:大学の危機をのりこえ、明日を拓くフォーラム

お問合せ先：univforum7@gmail.com ホームページ：<https://univforum.sakura.ne.jp/wordpress/>



「『学術の中心』としての大学と社会—研究・教育・ガバナンスから考える」開催趣旨

学校教育法は、「大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。」と定めています。

しかし、いま大学について語るとき、大学が「学術の中心」であることが忘れ去られていることはないでしょうか？

大学政策や科学技術政策では、「研究力の強化」が急務とされています。そのさい、大学を「知識産業体」としてとらえ、それがもつ知的資源をもとに各種の資金を呼び込み、「自ら稼ぐ」経営体に変革するという方向が打ち出されています。同時に、ごく少数の大学に大規模な資金を投入する「大学ファンド」が注目を集めています。このような政策は、「学術の中心」としての大学にとってどのような意味をもつのでしょうか？ そもそも、研究とは誰のためのものなのでしょうか？

一方、大学は未来を担う世代に高等教育を受ける機会を保障する役割をはたしています。大学教育は「役に立つ」のかは、古くて新し

い問いです。職業と直接むすびついた「専門職大学」という制度も導入されました。「学術の中心」としての大学で学ぶことの意味が改めて問われています。

大学ガバナンスの領域では、国公私の設置形態の違いを超えて、「ステークホルダー」の名で各種の利害を反映させることが重視され、教育・研究の直接的な担い手であり大学自治の主体と考えられてきた教職員の役割が不明確にされる方向に向かっています。このような方向は「学術の中心」としての大学のガバナンスにふさわしいものであるのかどうか問われます。

このシンポジウムでは、研究・教育・ガバナンスの視点から、大学が「学術の中心」であることの意味について改めて向き合いながら、大学が社会の理解と支持にしっかり支えられたものとなるためには何が求められているのかを考えます。